

えんばわ

68
号

Empowerment For All
エフアジヤパン

特集

現在・支援・未来
ラオスの図書館へ行こう





ラオスに国立図書館ができたのは、フランスから独立後の1956年。国内情勢が安定した1990年代以降、都立図書館1館、県立図書館が8館開館しました。しかし、その数においても、蔵書においても、まだまだ充実したものとは言えない状況があります。そこで今号では、エファジャパンが図書管理システムの導入を支援している、ラオスの国立図書館、都・県立図書館の現在と、誰もが読書できるための新規事業、未来への取り組みをご案内します。

Vol.68 CONTENTS

- | | | |
|-------|----------------------|---------------------------------------------|
| 03 | 特集 | ラオスの図書館の現在 |
| <hr/> | | |
| 05 | ラオスの図書館へ行こう | ビエンチャン都立図書館員の一日 |
| <hr/> | | |
| 07 | ラオスの図書館へ行こう | 図書管理のための PMB システム導入事業
—エファジャパンの活動紹介— |
| <hr/> | | |
| 09 | ラオスの図書館へ行こう | エファジャパンのラオス新規事業
—思考とスキル向上のための読書推進プロジェクト— |
| <hr/> | | |
| 11 | サバイディー | (ラオ語で「こんにちは」) |
| <hr/> | | |
| 12 | アジアまちかどライブラリー | —カンボジア— |
| <hr/> | | |
| 13 | ムペアック | (クメール語で「仲間」) |
| <hr/> | | |
| 14 | コーヒーブレイク | |

今号の表紙

ラオス 読書を楽しむ少女。首都・ビエンチャン都立図書館
(目次写真 放課後、図書館に駆け込んでくる子どもたち)



ラオスの図書館の現在



フアバン県立図書館

ラオス国立、都・県立図書館の統計

図書館名	設立年	職員数	蔵書数	図書管理システムの有無
ラオス国立図書館	1956	28	526,139	有
ビエンチャン都立図書館	2006	4	34,107	有
ビエンチャン県立図書館	2007	6	11,176	有
シエンクワン県立図書館	1997	7	25,288	有
サイニャブリー県立図書館	1994	5	5,520	有
フアバン県立図書館	2012	4	11,191	有
ルアンパバーン県立図書館	2004	7	11,000	無
ウドムサイ県立図書館	2010	5	16,382	無
サワンナケート県立図書館	2003	1	14,000	無
チャンパーサク県立図書館	2004	3	3,206	無

ラオスはビエンチャン都と17の県で成っています。内、1都、8県に公立図書館があります。



図書館分布図



ビエンチャン都立図書館

ラオスの今

ラオスは、人口の半数以上を占めるラオ族と、50の民族からなる多民族国家です。

公用語は「ラオ語」ですが、さまざまな少数民族の言語も多数存在しています。

第二次世界大戦後、独立国となったラオスは、その後、激しい内戦や、他国からの軍事的介入が続ぎ、現在の「ラオス人民民主共和国」が成立したのは、1975年のことでした。数十年を経た今でも、戦争時に埋められた地雷や不発弾により障害者となる人々がいまいます。しかし、障害者に対するサポートや施設は不足しているのが実情です。また、都市部と農村部の格差や貧困から、学校に通うことも難しい子どもたちが存在します。

そうした現状の中で、自由に本が読め、学ぶために、図書館は大きな役割や意義を持っています。

ラオスの図書館の現在と、その課題

2021年3月にラオス政府が発行した「第9次国家社会経済開発5カ年計画(2021・2025)」によると、「国民の幸福度の向上」のための成果目標として「農村部や遠隔地における貧困の緩和、人々の生計、文化的価値、メディア活動の改善」があげられています。その実現のために、ラオス国立図書館は、情報と文化遺産を保全し伝えるための機能を担っています。

国立図書館を中心として、1都、8県の図書館がつけられ、ラオスの教育、文化、情報を支える活動を行っています。



子どもたちが図書館へ

放課後、学校帰りの子どもたちが、友だちと一緒に図書館に駆け込んできます。予習復習をしたり、読書をする姿が見られます。



本の修繕

多くの人に読まれると破損する本が出てきます。破棄することなく、使える限りは修繕をして利用します。

本を棚に戻す作業

返却された本を棚に戻す作業をおこないます。



出勤

図書館員が出勤してきます。

新聞整理

早朝に配達された新聞をバインダーにはさみます。古い新聞は取り除き、閲覧場所にセツトします。

開館

開館時間前から入り口で待っていた利用者が入館してきました。本の返却、貸出しの処理を行います。

ラオスの首都ビエンチャンにある都立図書館では4人の職員が働いています。新型コロナウイルス感染症の影響がまだあるためか、月の利用者は約4000人ととまっています。今後の利用者が戻ってくる日のために本の登録、修繕などを進めています。
図書館員の12月のとある一日を紹介します。

18:00

閉館

16:00

子どもたちが図書館へ

15:00

本を棚に戻す作業

13:00

本の修繕

12:00

昼食

10:30

図書登録と目録作成

9:00

開館

8:45

新聞整理

8:30

出勤

図書登録と目録作成

図書管理業務「PMBシステム」に書誌情報を登録します。登録作業は2人の職員が週3日のペースで行っています。
※PMBシステムについては次のページで紹介しています。



昼食

職員全員が家から昼食を持ってきます。お昼休みの時間も図書館は閉館しないので、かわるがわる食事をとりまします。



閉館

平日は9時～18時、土曜日は9時～12時間開いています。利用者は図書館に入る際に、小さなプラスチックピースを箱に入れます。閉館後、これを数えて利用者数を把握します。
日本では来館者カウンターや、入館ゲートシステムを利用していますが、ラオスでは電気の供給が不安定なことや、図書館員が4人しかいないため、入場者をその都度数えることができません。それゆえに「プラスチックピースを数える」という、アナログな手段が取られるようになりました。



図書館に行って調べものをするとき、まずはPCで本のタイトルや著者名、キーワードなどを入れて検索するのではないのでしょうか？ ラオスでは、2019年まで県立図書館にPCによる検索システムが導入されていませんでした。エファジャパンは、ラオス国立図書館と協働で、各県立図書館の図書管理のために「PMBシステム」の導入と、そのトレーニングを提供しています。

PMBシステムとは

PMBシステムとは、フランスのPMB Servicesが開発した図書管理システムです。導入の際、言語の設定を変更し、母国語であるラオ語での検索が可能となっています。利用者は、探している本の有無、置かれた書架を検索でき、職員は、貸出状況が一目で把握できるため、蔵書の管理が容易になります。またすでにPMBを導入している、ラオス国内の他の図書館の蔵書の確認もできるようになります。

図書管理システム導入前は

利用者は読みたい本や、必要な情報を探すために、図書館員に尋

ねるか、自分で目録をみて探す必要がありました。貸出、返却は、ノートに記入する手書き作業で、その照合にも時間がかかっていました。

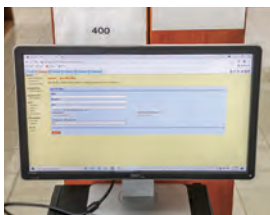
PMBシステム導入に向けた活動

2019年以降、順次導入が進められ、まずビエンチャン都、ビエンチャン県に、2021年にはシエンクワン県、サヤブリー県。2022年はフアパン県に広がっています。

ただ「PMBシステム」がインストールされたPCを配布しても、導入の意義や、利用方法がわからないと、使用されないうまとなりません。そのため研修会を開催し、トレーニングやフォローアップに力を入れています。国立図書館の担当職員と共に、システム導入をする県立図書館を訪問し、2日間の研修会を行っています。

実際に配布したPCやシステムが使われているか、使用上の課題があるとしたら何かを把握し、解決の方法を伝えるため、研修会終了から数か月後に図書館を訪問するモニタリングを実施。進捗状況の確認や追加の技術指導を行います。将来的にはラオス国内の図書館をつなぎ、相互貸借を行う計画です。

利用者の「知りたい」に答え、また図書館員の業務効率化のために、エファはPMBシステム導入を進めています。



PMB導入モニタリング

利用者の声



タモン・ヴォングカムヴィチット さん
フアパンモデル高校 (15歳)

「図書館には、毎日のように来ています。PMBシステムの使い方を図書館員から教えてもらいました。すべての機能がラオ語なので簡単に本を検索でき、迅速に情報を入手できるので、本を探す時間を節約できるようになりました。

しかし、今のところ図書館のすべての本がPMBシステムに登録されているわけではありません。近い将来、すべての本が登録されると、より多くの情報を簡単に見つけられるようになります。大変な作業ですが、願っています。」



PMBシステムの利用者

エファージャパンは2023年度より、ラオスの小学校に通う障害がある子どもたちを対象とした事業を本格的に開始します。前年度に開始する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で学校の閉鎖が続き、2月の学校再開後も、教育現場の混乱が続いたため、現地調査と図書室の設置、試験的な移動図書館活動の実施に留まっています。

今年度から、障害がある子どもたちが多く通う3校を対象に、新しい事業がはじまります。



が通える図書室を設置します。

●移動図書館の実施

ラオス国立図書館と協働で、障害児が多く通う小学校を対象に移動図書館を運行、巡回します。

●教材の提供・開発

障害児が生きるために必要な情報を伝え、楽しめる図書の購入を予定しています。また、PCやタブレットを用い、音声や映像で学習ができるデジタル教材の開発なども計画しています。



移動図書館に集まった子どもたち

ラオスの障害児の現状

ラオスの子どもが障害者となる主な原因は、母親の妊娠時・出産時の課題、怪我や病気、不発達の被害によるものとされています。しかし、ラオスには、そうした社会情報のデータ収集システムがないため、障害児の正確な数と状況に関する情報は限られているのが現状です。そのため「社会の中にいて見えにくい」人たちが抱える問題は表面化されず、虐待などを受けていた場合でも、人目に触れられずに課題が深刻化しやすいといわれています。

ラオスのユニセフ事務所は、障害がある子どもは、障害がない子どもよりも虐待、暴力、搾取のリスクが高いと報告しています。障害がある人々のための施設が少ないことや、物理的な距離によって、通うことに制限や困難があること、そして貧困が機会の喪失につながっています。こうしたことが、教育、健康、福祉のサービスへのアクセスを制限する、主要な障壁となっています。

思考とスキル向上のための読書推進プロジェクト ―活動内容―

●モデル図書室の設置

カウンターパートの「アジア子どもの家財団」オフィス内に、誰も

現地からの声・プロジェクトを実施するにあたっての願い



オラソン・ヴィサプラさん
アジア子どもの家財団 事務局長

「こんにちは。アジア子どもの家財団のオラソンと申します。今回の事業では、ビエンチャン都で暮らす障害がある子どもたちに、より良い読書環境を届けていくことを目的としています。昨年の調査によると、首都ビエンチャンには障害がある子どもたちが通う学校がいくつかありますが、学習に適した環境であるとはいいたがたいです。教員がどのように接すればよいかわからないため、サポートがほとんどされていないことがわかりました。また教材や施設の不足も深刻です。

そこで私たちは、障害がある子どもたちが、障害がない子どもたちと同じように教育を受けられるよう、施設や教材を改善したいと考えています。

彼らがよりよい教育を受けることができれば、よい仕事に就く機会が増え、貧困の連鎖から抜け出すことができるようになると思います。本事業へのご支援、ご協力をお願い申し上げます。」



アジア カンボジア ライブラリ

まじかど

今日の色の服を着よう

カンボジアの学校に行くと、図書室などに、色違いのスカートをはいた7人の女性の絵が飾られています。

カンボジアでは公式な式典のとき「今日の色の服」を着ることになっています。



日本と一緒に日曜日には太陽、月曜日は月、火曜日は火星のイメージから色が決められます。

日曜日は赤、月はオレンジ、火は紫、水が黄緑、木は緑、金が青、土はあずき色です。

日曜日の式典の時、ひとりだけ青を着ていたということがないように気をつけたいと思います。

サバイディー
ラオ語で「こんにちは」

クラウドファンディングに挑戦中！

「本の飢餓から子どもたちを守りたい。
ラオス障害児にバリアフリー図書を」プロジェクト

詳しくは下記URL、QRコードよりご覧ください。
<https://camp-fire.jp/projects/view/653399>



目標金額100万円 2023年3月31日(金)まで



前頁、特集でもお伝えした通り、ラオスでは障害がある子どもは、障害のない子どもよりも虐待、暴力、搾取のリスクが高いといわれています。学校でも教員が障害児への教え方がわからない、適した教材がないなどの課題があります。点字の本をはじめ、PC・タブレットを利用し音声や映像で学ぶ教材(マルチメディアデイズ)など、バリアフリーな図書が求められていますが、まったく普及していません。障害がある子どもは、本が読みたくても読めない「本の飢餓」といわれる状況の中にいます。

エファジャパンは、障害児が多く学ぶ小学校で「思考とスキル向上のための読書推進プロジェクト」を展開し、移動図書館の実施、教員へのトレーニングの提供、バリアフリーな教材開発を行います。また協働して事業を実施している「アジア子どもの家財団」オフィス内にモデル図書室を設置します。

国語や算数はもちろん、農業、公衆衛生、スキルトレーニングなど「生きるための情報」をすべての子どもたちへ届ける事業へ応援をお願いいたします。



卒業した小学校は田舎だったからか、特別支援学級がありませんでした。都心部にはもっと普通に設置されていると知ったのは、仕事の傍ら通っている大学院で移民やマイノリティに関する授業を受けたからです。

見えないわけではなく、見えるようになっていない。いないのではなく、いることをわかろうとしない。マイノリティが生きづらいのは多くの場合、マジョリティ側の意識が原因だということを(いまさらですが)学びました。マジョリティとは現代の日本社会でいうと、日本人であり健常者であり、もしかすると働く大人の男性である…かもしれません。

そして、マジョリティとマイノリティの境目はとてもあいまいです。その授業の期間に、妹に待望の子どもが生まれました。双子で、ひとりには四肢に障害があります。未熟児でまだNICU(新生児集中治療室)にいるのでどんな生活が待つかわかりません。でも、これからはまさに自分事として向き合っていけそうです。

理事 学頭貴子(日本経済新聞社 編集 金融・市場ユニット記者)

ムペアック

クメール語で「仲間」

エファアをご支援
いただいている方々を
ご紹介します。

リサイクル募金 きしゃぼん 嵯峨野株式会社



取締役 大村若菜さん

エファジャパンでは「捨てるに、ぐるりと。」として、リサイクル募金を行っています。本やDVD、ブランド品等をご提供いただき、換金額を寄付に当てる取り組みです。申込受付から査定、報告、送金は「リサイクル募金きしゃぼん」が担当しています。換金額に加えて、1回の募金につき1000円をきしゃぼんから寄付していただいています。

今回は「きしゃぼん」の運営を担う、嵯峨野株式会社様より文章を寄せていただきました。

巡り合わせをいただいて、エファジャパン様との協働は、実に10年以上となります。

きしゃぼんのサービス開始当初のご採用で、記念すべき2番目のパートナー様でした。2012年秋には、オフィスをお訪ねすることもでき、現在まで大変よいパートナーシップを継続させていただいております。

導入を検討されている団体様へ、エファジャパン様の事例をご紹介します度に、大変な名譽を感じております。きしゃぼんは、喜んで捨てる『喜捨』という言葉と、ぼん！と送るだけ、簡単ですよ、という意味の愛称がサービス名です。お送りいただいた品物は再販売を目

的に、寄付として送金しています。換金後の品物はリユース品として再販売をしています。

エファジャパン様の寄付者様には、現在まで53000点を超えるお品物をお送りいただいております。一度きりではなく、年に何度もお送りいただくリピーター様も多く、温かいご支援に感謝しております。誠にありがとうございます。

きしゃぼんでは本だけでなく、切手ハガキ、ブランド品等、幅広いお品物を取り扱い、ご寄付に繋がっています。最近では、きしゃぼんのシステムが終活に役立つと、たいへんご好評いただいております。

きしゃぼんが皆様の生活に寄り添った取り組みになっていることをとても嬉しく思います。

エファジャパン様の、アジアの子どもたちを支える大変尊い活動に、少しでもきしゃぼんがお役に立てておりますこと、活動の励みになっております。これからも一緒にリサイクル募金「ぐるりと。」を盛り上げていければと存じます。



査定風景

エファパートナー制度が新しくなります

エファパートナーの皆さまには、共に歩んでいただきながら、子どもたちの成長や支援国の社会の変化を最も近くで見守っていただきたいと考えています。すべての子どもたちが可能性と創造性を発揮し「自分ものがたり」を描ける社会の実現のため、エファと一緒に歩んでいただけませんか。

現在パートナーの皆さまには別途書面でもお知らせさせていただきますが、2023年4月よりエファのパートナー制度が新しくなります。現行制度のままの継続も可能ですが、新制度へご移向いただける場合は、事務局までご一報いただけますようお願い申し上げます。

【変更点について】

内容	現行制度	新制度(変更後)
パートナー個人支援金	年払い3,000円	月払い1,000円から(年間12,000円～)
パートナー個人支援方法	年に一度 銀行口座自動振替 郵便振替・銀行振込	各月 クレジットカード決済 銀行口座自動振替
パートナー団体支援金	年払い20,000円	変更なし
パートナー団体支援方法	年に一度 郵便振替・銀行振込	変更なし

取り組みや成果の「見える化」をすすめてまいります

エファパートナーの皆さまには機関誌だけではなく、LINEを通じた最新の情報、イベントへの優先のご案内をさせていただきます。現行制度のパートナーの皆さまにも、同様の状況提供をいたします。

お申込み・詳細は
特設サイトをご覧ください

エファパートナー

検索

<https://www.efa-japan.org/partner/>



えんばわ 通巻68号(2023・3・春)
2023年3月15日発行

発行人: 伊藤道雄
編集協力: (株)MAG MAG、筋田清二
発行所: 特定非営利活動法人エファジャパン
〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-2 九段宝生ビル3階
TEL: 03-3263-0337 FAX: 03-3263-0338 Email: info@efa-japan.org
<https://www.efa-japan.org/>

※エファジャパンは、全国の地方公共サービスに携わる人たちが応援する、国際協力NGOです。アジアの子どもたちへの教育文化支援・福祉支援を行っています。
※認定NPO法人であるエファジャパンへのご寄付は、税制優遇の対象です。